少雨に対する農作物等管理技術対策について

平成２８年６月８日
埼　玉　県　農　林　部

関東地方は６月５日ごろに梅雨入りしたとのことですが、利根川上流地域の降水量が少なく、利根川水系では水不足が懸念されます。

少雨対策として以下の農作物技術対策資料を作成しましたので、参考にしてください。

なお、今後とも技術対策資料を提供しますので、気象情報等に注意してください。

水　稲

１　これから田植え準備に入るところでは、畦畔、水尻からの漏水を抑えるため、補修・点検を行う。

２　代かきは田からあふれるほどの無駄な入水をせず、ヒタヒタ程度とし丁寧に行う。

３　田植え後の除草剤処理では、深さ５cmの湛水とし、水尻をしっかりと止めて漏水を防ぐ。処理後１週間を目標にそのままの状態を維持し、途中、水が切れ田面がでるような時だけ静かに補給する。

４　有効分げつが決まるまで（４月下旬から５月上旬植えで田植え後６週間程度、５月中旬から下旬植えで田植え後５週間程度）は浅水で管理する。

５　有効分げつが決まったら速やかに中干しを開始する。

６　用水不足で代かきが実施できず、田植えが遅れる場合は、次の苗管理を実施する。

① 肥切れの場合は、苗箱あたり窒素成分で0.5ｇ程度の追肥を行う。

② 伸びすぎの恐れのある場合、葉がよれない程度に灌水を控える。

７　イネ苗の高温障害が散見されるので、風通しを良くするなど適正な育苗管理に心がける。

各作物共通

高温乾燥条件下で発生しやすいハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類等の早期発見に努め、的確な防除を行う。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。
http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokuhenkou.html